



2026年8月6日

日本鉄道労働組合連合会

連 合 2 0 2 6 平 和 行 動 i n 広 島

連合は、8月5日から6日にかけて「2026平和行動in広島」を開催した。JR連合から宮野勇馬企画局長のほか、JR西労組・貨物鉄産労の仲間35名が参加した。「連合2026平和ヒロシマ集会」には、全国から約1,700名の仲間が結集した。

例年実施されているピースウォークについては、環境省による暑さ指数(WBGT)が「危険」を示す予測が出たことから、当日に中止の判断がなされたが、JR西労組広島地本の安全を考慮した上での臨機応変な対応により、広島平和記念資料館の見学ののち、「被爆アオギリ」や“ちちをかえせ ははをかえせ”で始まる「峠三吉の詩碑」などを見学し、同・広島地本青年女性委員会のガイドにより、被爆時の状況や戦争の実相に触れ、恒久平和への想いを高めた。



上野学園ホールで開催された「連合2026平和ヒロシマ集会」では、主催者を代表して連合の芳野友子会長が挨拶に立ち、「戦後81年が経過する中、国際社会に目を向ければ核兵器の脅威は深刻さを増している。原爆の悲劇を風化させないよう想いを継承していこう」と呼びかけ、「核兵器廃絶」の必要性を述べた。

集会では、広島県原爆被害者団体協議会の切明千枝子氏による講演が行われ、「平和は油断をすると逃げてしまう。みんなの手で守っていこう」との96歳の訴えに、会場一同は心を打たれた。その後、ピースフラッグリレーや平和アピールの確認が行われた。

JR連合は、綱領に掲げるとおり、世界平和の実現に向け、引き続き連合をはじめ、理念を同じくする国内外との労働者と連帯して取り組んでいく。



折り鶴を献納